

2024 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

団体名:Rose FIG

一押しの活動:「ゆうちゃんとまほうのばら」英訳プロジェクト

【共感！】活動目的

- ① 2025 年 5 月に開催される「世界バラ会議福山大会」をきっかけとした福山のローズマインドを世界に届ける。
- ② 国際交流に興味関心のある会員のコミュニティ機能を提供する。

【共感！】活動を始めたきっかけ

- ① 2012年に福山市手城公民館(当時)で製作された絵本「ゆうちゃんとまほうのばら」。美しい絵とともに福山のバラのルーツを物語る、この絵本をバイリンガル版のパンフレットにして、世界バラ会議 in 福山大会参加者に配布したい！と考えた。
- ② 福山の中高校生対象に翻訳ボランティアを募集。翻訳作業を通し、福山のバラ、そしてローズマインド(やさしさ、思いやり、助け合い)、国際平和について考えてもらう機会となると考えた。

【広がり！】知ってほしい取り組み

福山のバラのルーツは、太平洋戦争末期の福山空襲で傷ついたまちの住人が復興のために1000本のバラを植えたことから。福山のバラは市民が大切に育てており、そのことが世界バラ会議の開催地として評価された。公民館の絵本製作委員会が12年前に作成した福山のばらの歴史の物語を世界に発信しようとしている。中年メンバーの多いRose FIGメンバーの活動により、10代を巻き込み一体となって、2025年5月に2,000部のパンフレットを製作し、大会や市内学校に配布する。(現在製作中)

【成果！】活動実績

- ・ 5月より中高生ボランティア募集開始。オンライン説明会3回で参加を呼びかけ、福山市内在学在住9校28名の翻訳ボランティアの応募があった。
- ・ 7月28日に対面でキックオフを開催。Rose FIGメンバー6名、中高生ボランティア18名、福山市など関係者2名が参加。
- ・ 8月にオンライン相談室3回開催。中高生ボランティアの翻訳作業をサポート。全員が英訳を提出。
- ・ 9月よりRose FIGメンバーで校正・編集作業を実施。

【成果！】教育的効果

- ・ 募集告知やキックオフを通し、世界バラ会議福山大会について、中高生に知ってもらえた。
- ・ 中高生が自分で志願して申し込むことで主体性を引き出した。
- ・ 中高生が自分のまちの歴史を知る機会を創った。
- ・ ボランティア応募に当たり下記の3点をお願いした。(意志と勇気をもって応募するよう)
 - ① 戦後の福山にバラを植えた市民の気持ちを想像してみる
 - ② 自分の活動が福山や世界の平和につながると想像してみる
 - ③ みんなと協力して、1冊の本が完成したうれしさを想像してみる

2024 年度「ひろしまコミュニティ基金」応募用紙_様式 2

◆新聞記事(中国新聞朝刊 2024/6/21)

◆新聞記事(中国新聞朝刊 2024/7/30)

福山のバラ題材の絵本「ゆうちゃんとまほうのばら」

福山で国際交流ボランティアに携わる住民有志が、ばらのまち福山を題材とした絵本「ゆうちゃんとまほうのばら」の英語プロジェクトを始め、英語の得意な市内の中学生が参加し、翻訳を手がける。来年の世界バラ会議福山大会のゲストに、日本語を併記した絵本のパンフレットを併記した絵本のパンフレットを持って帰ってもらう計画だ。(原末緒)

「ゆうちゃんとまほうのばら」は、1945年の福山空襲で流されたばらに潤いを取り戻そうと、市民が現在のばら公園に千本のバラを植えた春話に基づくストーリー。2012年に手塚学区の住民たちが作った。市内で13、10年にあった青少年の国際交流事業の通訳ボランティアで親交を深めた福山、三原市の住民6人が、今年ほど前に出版社 Rose、F&C、ローズ・フィグ」を結成、市民がバラに込めた平和への願いを込めて、各国の人に絵本を持ち帰ってもらう「スマイル」を掲げたい」と意気込んでいた。

世界会議でパンフ配布

「福山のバラ」がめあつた左相への思いを全国の人に伝えたいと話す福山の市民有志だ。

バラ会議へ絵本英訳開始

福山の中学生 来年3月パンフ完成

「ばらのまち福山」を題材にした絵本「ゆうちゃんとまほうのばら」を世界に広めるプロジェクトで、中学生有志による英訳作業が始まった。福山市在住や市内の学校に通う28人が担い、来年5月の世界バラ会議福山大会のゲストに日本語と英語を併記した絵本のパンフレットを贈る。生徒は28日、同市霞町に集合。プロジェクトを企画した市民団体「ローズ・フィグ」のメンバーから、絵本の挿絵を参考にしながら微妙なニュアンスを考えることや、会話文の中の主語に注意するなど翻訳のポイントを聞いた。

その後、福山空襲で荒廃したまちに潤いを取り戻そうとバラが植えられた実話を基にした絵本を輪読。話し合いながら翻訳に取り組んだ。今後はオンラインなどで作業を進め、来年3月に完成させる。

広島大付属福山高3年の多田結さん(17)は「自分が育ったまちで会議が開かれるまたとない機会。好きな英語を生かした活動が世界平和につながれば」と話した。(原末緒)

絵本の英訳に取り組む生徒たち

◆活動の様子



ゆうちゃんとまほうのばら 英訳プロジェクト、第2回オンライン相談室やりました～！

次回は最終回、8/25日19時～20時です！

WORLD HOUSE COMMUNITY 2025 in FURUYAMA

